

イチゴ農家へ3人門出

J A全農岐阜 就農研修所を修了

J A全農岐阜が運営するいちご新規就農者研修所(岐阜市曾我屋)の修了式が31日、同市宇佐南のJ A会館で開かれ、研修を終えた14期生3人が就農に向けて決意を新たにしました。

14期生は田中利昌さん(49)＝同市＝、大矢的充さん(46)＝美濃市＝、高野博幸さん(45)＝可児市＝。3人は14カ月間、研修所でイチゴの栽培技術や農業経営に関するノウハウを学び、それぞれの地元で6月から就農する。

式では、西村寿文県本部長が3人に修了証書を手渡し、「資材の高騰などで苦労も多いだろうが、まずは研修で学んだ基本的なことに励み、良いものをたくさん作ることを心がけてほしい」と激励した。3人とも脱サラしての挑戦で、田中さんは「研修で学んだこと

を思い出しながら、おいしいと言っていただけのものを作りたい」、大矢さんは「周囲でイチゴを作っている人は少ないので、自分を

見てやりたいという人を増やしていけたら」、高野さんは「経営者としてしっかりと収量を上げることに専念したい」とそれぞれ抱負を語った。

研修所は2008年に開設。昨年までに50人が修了し、全員が県内で就農している。(山田雄大)



修了証書を受け取った田中利昌さん(右から2人目)、大矢的充さん(中央)、高野博幸さん(左から2人目)＝岐阜市宇佐南、J A会館